



HANS REY  
in ARABIAN RIDE

# 悠久の時間を刻む谷で MTBライド!!

スコットランドから戻ったハンス・レイが、早くも新しい冒険に出発!  
次なるターゲットは「紀元前から栄える砂漠の王国」のトレイル制覇。  
相棒は“ツール・ド・フランスを跳んだ男”デヴ・ワトソンだ

PHOTO: Dean "Blotto" Gray STORY: Hans "No Way" REY TEXT: Hideyuki SUZUKI



**Hans REY**  
最高のバイクスキルを生かし、  
世界中を無類無尽に飛び回るア  
ドベンチャーライダー。発展途  
上国をバイクを送るNPO団体  
「HansLife」の顔としても  
活躍中 [www.hansrey.com](http://www.hansrey.com)



**Dave WATSON**  
カオティアン山トレイラー、フ  
リーライダーの草分けとして  
90年代から活動。2003年のツ  
ール・ド・フランスの集団を飛  
び越えたライダーとして世界的  
に有名になった



## 古代ローマ人の遺跡でアクションライド連発!!

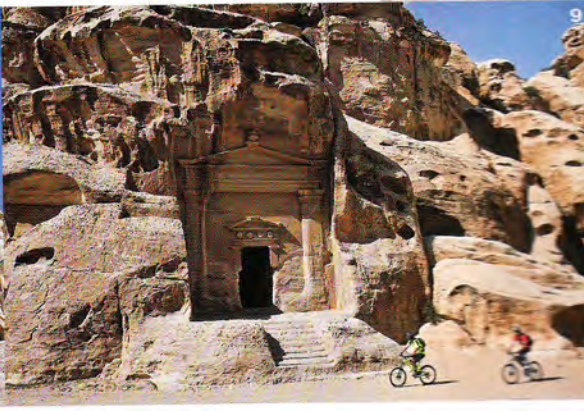
発端はアウトドア専門放送局「ライド・ガイド」からの電話だった。私にヨルダンを走ってほしいという。相棒はデイク・ワトソン。だいぶ前から「走りたい場所」リストにヨルダンを入れていた私に異存はなかった。

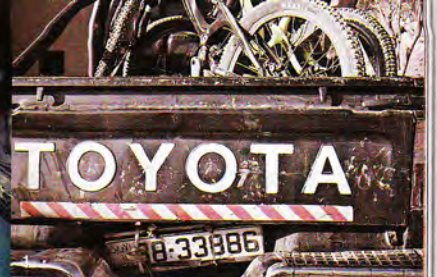
首都アンマンで3日間、観光をしながらバイクを待たされた我々は、バイクを組み上げると、すぐさま最初の目的地ジェラシュに出発。

紀元前、古代ローマ帝国の都市として栄えた後、746年の地震で放棄された町。私とデイクは発掘されたローマ街道を抜け、古い石畳の遺跡をあますことなく走り回った。



1.フォーラム（広場）の芸術的な列柱。2.階段を下るとそこは店先だった。3.ジェラシュの市場にはさまざまな種類の穀物が売られている。4.観光ショーに出演する古代ローマ人の天幕？5.教会の跡を走り抜ける。6.バイクが届いた翌日から我々とはにかく走った。7.私のバイクにまたがり喜ぶヨルダンの軍人。8.ローマ劇場を下るデイク。9.ペトラに点在する墳墓。10.1800年前の建造物とは思えないジェラシュの劇場



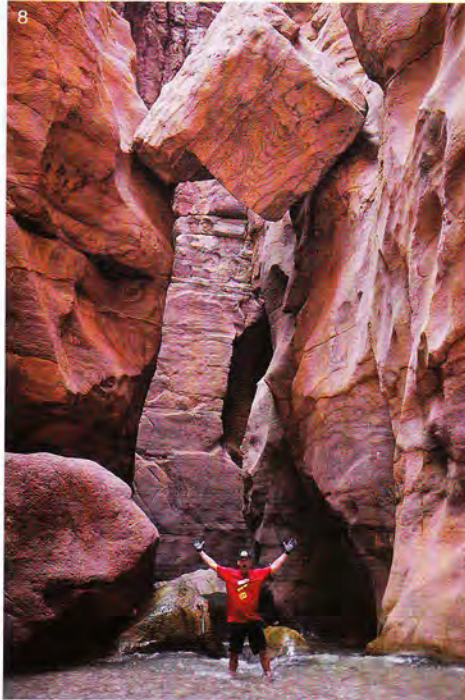


## 紀元前の面影を残す ヨルダンのトレイル

「ヨルダンは砂漠の国」という認識は、実際のところ間違っている。

出口のない湖、死海に注ぐ川の水量は豊富で、オアシスそのもの。我々は水源に向かってバイクを走らせ、時には担いで上り、ゴキゲンなダウンヒルを楽しんだ。

死海を南下した我々は、緑あふれるワディ・ダナ、そして有名なベトラ遺跡でロッキーなトレイルライドを楽しんだ。最後の目的地ワディ



・ラムへとやってきた。

どうやって形作られたのか、想像もできない自然の芸術に圧倒されながらも、MTBがこの世にあることを感謝せずにはいられなかった。

アラビアのロレンスが魅了された場所。「静寂に耳を傾ける場所」を、陽が暮れるまで堪能した。

私が思い描いていたとおり、ここはバイクを駆り立てる魅力が秘められた、空の輝し満ちたのだ。

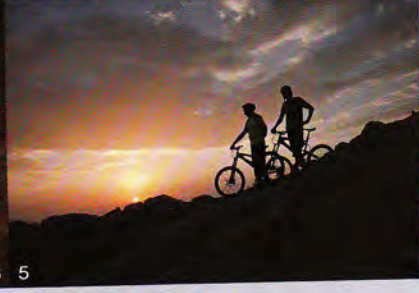
**HANS REY  
IN ARABIAN RIDE**  
悠久の時を刻む谷で  
MTBライド!!



1.移動はトヨタのピックアップ。古いがしっかり働いてくれた。2.日射しと砂対策にターバンとサングラスは必需品。3.死海でパカンス気分を楽しむ。4.彼らもいしえの王国の一員。5.地元民のアジとして欠かせないロバ。6.地中に埋めて蒸すのがバドウィン流調理法。7.失われつつある伝統を受け継ぐThe Zikra Initiative。8.死海東岸の溪谷ワディ・ムジブ。自然が起こした奇跡だ！



2 1



6 5



4 3



1. 遠るものが何もないデザートライド。子供たちの前で競り合うマネをしてみせる。2. 大きくキレの長いジャンプがタイプ的身上。ロードレーサーも観客もいないが。3. ワディ・ラムのオープンカフェ。ロウソクに照らされた壁画が幻想的。4. ワディ・ラムに点在する「岩の橋」をハイクアップ。5. 沈みゆく夕陽を眺めながら、明日のライドに思いを馳せる。6. 古代ナバテア人の遺した生命力あふれる壁画

「旅の醍醐味は、未知の世界に足を踏み入れること。そして、そこで感じる感動や発見。それは、言葉では表現しきれない。だからこそ、写真や映像を通じて、多くの人にその魅力を伝えることが、僕らの使命だ。これからも、世界中の美しい風景や文化を、みなさんに届けていきたい。それが、僕らの夢だ。」